

令和2年1月10日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢  
(コード2388 東証JASDAQ市場)  
問合せ先 開示担当 小竹 康博  
(TEL 03-6225-2207)

### 当社グループが保有するタイの高級リゾート「ゼボラリゾート」が インターネットメディアで紹介されました

当社グループが保有するタイ、皮皮島に所在する高級リゾート「ゼボラリゾート」が旅行関連のインターネットメディアである「World Oyster」で掲載されましたのでご紹介します。

ゼボラリゾートは近年エコリゾートとしての評価を高め、各種の賞を受賞しております。当記事は同ホテルのゼネラルマネージャー、Florian Hallermann氏が当社グループに加わった後の10年以上を費やして取り組んできた、サステイナビリティ（持続可能な開発）への挑戦についてのインタビュー記事となっております。

以下に当該記事の日本語訳をご紹介します。（英文原文は文末にリンクを掲載します）

#### サステイナビリティの先駆者

#### Travel Hero：Florian Hallermann 氏

旅行が環境に悪いと叫ぶ声が日々高まっています。私たちは、旅行を適切に行えるようにすることが、私たちが生きているこの美しい星を守るための道具にできると信じています。地球を守るためにすべてを捧げてきた旅行者たちに光を当てたい。David Attenborough の言葉を借りれば、「気にかけていないことについて、誰も守ろうとはしないものです。そしてまた経験したことのないことについては、誰も気かけないのです。」

今回は、タイは皮皮島にあるサステイナブル・エコ・リゾート、ゼボラリゾートのゼネラルマネージャーであるFlorian Hallerman氏を特集します。

15年前、タイである旅行をしている際に、私はFlorian



Hallermann 氏に出会いました。私たちはツーリズムについて話しこみ素晴らしい夜を過ごしました。ある話題について話し始めたところ、彼が夢中になっていることに私は気づきました。それはプラスチックについてでした。この時は将来ピピ島でまた彼に会うことになるとは思っても見ませんでした。

再び彼と出会ったのは、ゼボラリゾートという楽園のトロピカル・ビーチの日傘の下でした。30年前、フロリアンさんはウィーンからアジアへ旅立ち、楽園を見つけたのちは、そこを離れなかったのです。2008年に彼はゼボラリゾートのゼネラルマネージャーに就任し、現在11年目を迎えています。ゼボラリゾートはタイ南部の伝統的な村落を基盤に、「シンプルさに立ち戻る」をテーマにして、素足で過ごす贅沢さと個々人にあわせたを提供しています。このホテルはトリップアドバイザーではピピ島で1位にランクされています。

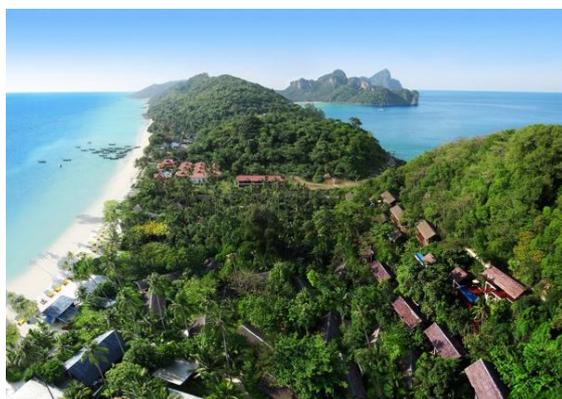
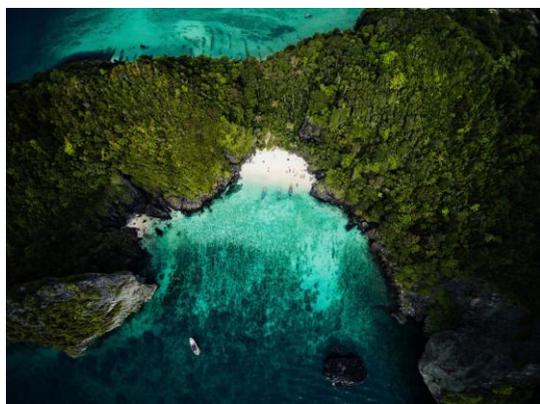


なぜゼボラをエコ・フレンドリー・リゾートにしようと決めたのですか？



私は環境を大事にする家庭で育ったので、新任のゼネラルマネージャーとしてピピ島に来た直後から、変化を起こすチャンスを探していました。プラスチック製のシャンプーやアメニティボトル、とりわけホテルのロゴが入っているものを多量に使っていることは悩ましいことの一つでした。これは悪しき慣行であり、マーケティング上も悪影響なのです。4カ月以内に、地元産のセラミックボトルに変更しました。この結果、ホテル運営のコストも大幅に削減されました。過去11年間で、私たちはほぼ50万個のペットボトルが捨てられるのを防いだことになります。

どのようにして始めたのか、簡単に説明していただけますか



ゼボラは町から遠く離れた大変美しい場所にあります。その地の自然は非常に壊れやすいため、私たちは皆、周囲の自然の声に耳を傾け、自然を私たちのガイドとしなければなりません。何も考えずに事を実行すると、6ヶ月から9ヶ月のうちには自然はその分の代償を私たちに求めます。自然からの請求はより高くつき、リゾートとそのスタッフの幸福にとっても非生産的であることがわかったのです。また、チームメンバーが能力を最大限に発揮できるよう、公平で働きやすい環境を整えることも重要です。大切なのは自然だけではなく、スタッフや地域社会にも配慮が必要なのです。私は現在のホテルのオーナーから、この地域で最高の雇用者として認められるような素晴らしい労働環境を提供するよう頼まれていました。

**「自然は人類を必要としません。ですが人類には自然が必要です。地球その2は存在しないのですから。」**

サステイナビリティ・プロジェクトでは、どのような課題に直面しましたか？

これらのプロジェクトの最大の課題は、最新のテクノロジーや事例に接する機会がないことです。私たちは単独で、非常に独立したリゾートであるため、技術的な指導者のいるような本社はありません。必要な技術を最新の状態に維持し、発見することは困難であり、新しいことを取り入れるマインドを持って意思決定をしていくことが必要になりました。幸運なことに、非常に熟練したエンジニアリングチームがいて、我々が必要とした際には何であっても作ってくれました。

ある意味、それは単に幸運であったこともあります。ホテルのリピーターとなったスイスの環境ビジネスコンサルタントである Alexander Auer 氏は、私が直面している廃水システムの課題を見て、ヨーロッパから必要な設計図をすべて提供してくれました。私たちは現地の自然の能力に合わせてそのシステムを立ち上げました。今ではその排水はとてきれいなになったため、多くの魚が住んでいます。

取り掛かったプロジェクトがうまくいかなかったことはありますか？

2018年7月、私たちはついに再利用可能なガラス瓶入りの自家製飲料水をつくることができるようになりました。計画から実施までには3年以上の年月がかかっています。最初の年、私たちはボトル洗浄と補充の拠点を作るのにあまりに急ぎすぎました。あとになって水の生産能力が十分でないことを判明したのです。その後一年間の遅れと25万ユーロもの巨額の投資によって、なんとか逆浸透膜施設を使って十分な水を生産できるようになりました。そこで、水質を確保するためには、さらに第二施設が必要であることがわかりました。それにより、タイムラインには新たな1年が追加されることになってしまいました。それらの後に、十分な水を確保できるかどうか、1回の乾季を通してシステムを評価することになりました。私たちが成し遂げたのは4年目だったのです。私たちは成功しました、ものすごい学習曲線を経て、多くの挫折、そして多額のコストをかけつつも。



**「重要な仏教用語に「足る」という言葉があります。西洋文化は多くの点で、もう十分というところまで来ていると思います。今、人類が未来を切り開こうと願わずして、いつできるというのでしょうか」**

環境に配慮していない国で持続可能性を実現するにはどうすればいいのでしょうか？

我々はその過程でスタッフを全員参加させます。使い捨てのペットボトルは使用せず、チームメンバー全員に金属製のコップをプレゼントしています。飲料水用の噴水を建物の裏と職員の居住区域に設置しました。ペットボトルが完全になくなったわけではありませんが、水を補充して使われているのでコスト削減にはなっています。また、スタッフの写真を新しいボトルやコップと共にソーシャルメディアで共有しています。皆に教育とツールを与えることや、楽しい時間を作ることは、導入過程において彼らを勇気づけ、誇りを与えます。





### 環境への取り組みは、あなたの生活にも影響を与えますか？

大切な仏教用語に「足る」があります。西洋文化は多くの点で、もう十分というところまで来ていると思います。今、人類が、子どもたちが安全に、持続的に繁栄できる未来を作ろうと思わなくてはいつできるというのでしょうか。小さなホテル、小さな家族、あるいは一人の人が大きな影響力を持つことができるなら、大企業もまたそれを行うことができ、一層大きな影響力を持つことができるはずです。

私は、発泡スチロールの容器を避けるために、お気に入りのレストランでテイクアウトの食べ物を買うときは、綿の買い物袋を使い、再利用可能なプラスチック容器を持ち歩いています。庭には鳥が安全に繁殖できるような空間を作ろうとしています。私は熱心なカヤック乗りで、しばしば長距離を旅します。戻ったときには、カヤックはプラスチックでいっぱいのごみ収集車のようです。妻と私は子供たちに人生の大切な教訓を教えているつもりです。彼らが目を開くのを助け、正しいことができるよう訓練したいのです。



なぜ持続可能な観光はそんなに重要なのでしょうか？

それは重要であるだけでなく、不可欠だと思います。人類が今しばらくの間この地球で生き伸びるつもりなら、私たちは皆、今すぐに始めるべきです。サステナビリティが豊かな国だけの趣味だった時代は終わりました。これらの豊かな国は汚染を止める必要があります。利益だけを常に動機に行動するのをやめ、技術と目標を定めた投資で他国を支援する必要があります。

**「私は熱心なカヤック乗りで、しばしば長距離を旅します。戻ったときには、カヤックはプラスチックでいっぱいのごみ収集車のようです。」**



記事原文は下記の URL から確認いただけます。（英語）

<https://magazine.wideoyster.com/en/travel-hero-florian-hallermann/>

以 上